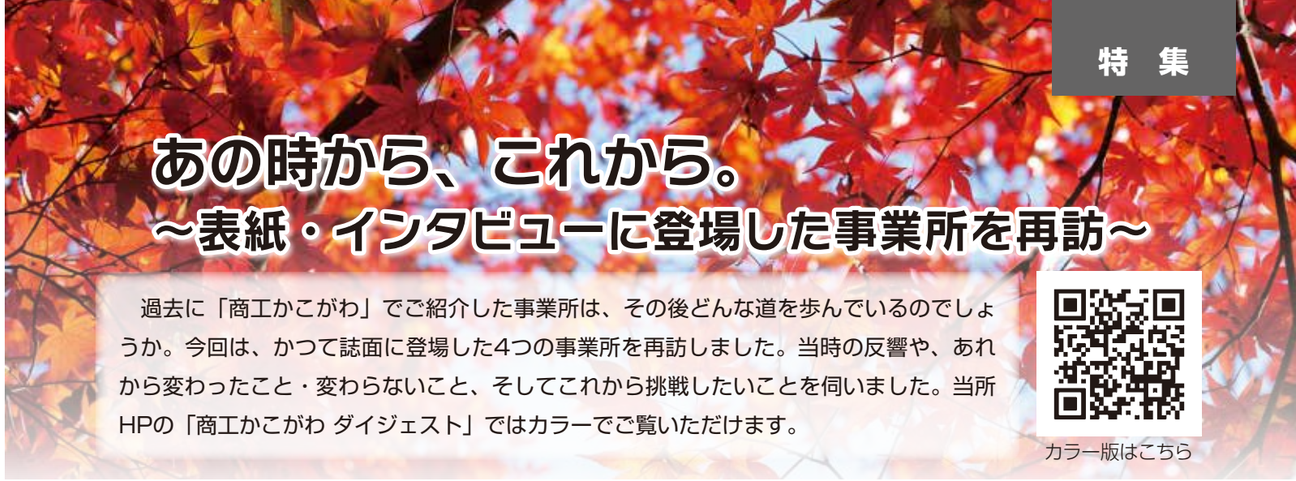
特　集



あの時から、これから。
～表紙・インタビューに登場した事業所を再訪～

過去に「商工かこがわ」でご紹介した事業所は、その後どんな道を歩んでいるのでしょうか。今回は、かつて誌面に登場した4つの事業所を再訪しました。当時の反響や、あれから変わったこと・変わらないこと、そしてこれから挑戦したいことを伺いました。当所HPの「商工かこがわ ダイジェスト」ではカラーでご覧いただけます。

カラー版はこちら

H・G・F

代表：福岡　ひろみ さん
業種：ハンドメイドアクセサリー販売
住所：加古川市平岡町二俣651−2−306



迷ったら、挑戦する！

あの時

H・G・Fさんは2023年12月号の表紙に登場。独学でガラスアクセサリーを学び、2009年に開業。フリーマーケットから百貨店のポップアップストアへと舞台を広げ、こだわりの色「赤バラ」のアクセサリーが一番人気。掲載後は、同業者から「元気がもらえた」と声をかけられたそうです。









あれから

2025年の暮れ、出店のオファーがなく落ち込んだこともありました。そこで2026年は「迷ったら挑戦する」と決めると、加古川ヤマトヤシキでの長期出店を皮切りに、奈良県や滋賀県の百貨店からも声がかかりました。初めての土地で不安もありましたが、「赤バラ」は今回も人気色となり、売り切れ寸前になるほど。

地元でも認知が広がり、遠方から訪れるお客さんも増えています。出店先で製作する機会が増え、その場でのオーダーも増加。アクセサリーに興味のない方にも楽しんでもらおうと、ガラスのインテリアにも幅を広げています。

これから

独学で始めたからこそ、ガラスにはまだまだ可能性があると話します。今は、お客さんの依頼から生まれた干支のインテリアを製作中。今後も加古川を中心に、新しい場所にも出店し、楽しみに待つお客さんのために作り続けたいと話してくださいました。



加古川に出店した際に「おかえりなさい」と言ってくれるお客さんがいて、とてもうれしいと福岡さん。

株式会社 パソナ古酒蔵

代表取締役：安村　亮彦 さん
業種：古酒の卸、販売
住所：加古川市野口町良野1056

古酒を、もっと身近に！



あの時

㈱パソナ古酒蔵（取材時：㈱匠創生）さんは、２０２５年３月号のクローズアップで登場。日本初の古酒専門酒蔵で、全国の酒蔵から古酒を集めてブレンド古酒を製造・販売しています。当時は、より身近に味わってもらうための試飲バーを建設中でした。

あれから

ＤＩＹで試飲バーを併設し、実際の蔵を見ながら古酒を味わう古酒蔵ツアーを始めました。テレビで紹介されたことをきっかけに、近隣の方々だけでなく関東方面からや若い世代にも足を運んでもらえるように。蔵の古酒は前回から10社・10銘柄以上増え、60の酒蔵、160種類になりました。

初めてのブレンド古酒「古昔の美酒 INISHIE 匠 No.1 -Doux-」は、法人ギフトや手土産として認知が拡大。２０２５年12月には、ＡＮＡ国際線ファーストクラス全線で、日本酒の古酒として初めて機内提供されました。さらに、「おいしいけれど、もっと気軽に楽しみたい」という声や、イベントで好評だった古酒のハイボールを受けて、「古昔の美酒　古酒ハイボール　1998」を今年の10月に発売。1998年に醸造された28年熟成の古酒を使い、パッケージには国宝「鳥獣戯画」を採用しました。

ゼロからの出発でしたが、日本酒フェスでは長蛇の列ができ、「日本酒じゃないみたい」、「今までの古酒とは違う」という声が。少しずつ国内にファンが増えていると、安村社長は実感しています。







これから

変わらないのは、酒蔵を支え、酒類業界を盛り上げたいという思い。今後も「なんだこれ！」と思ってもらえる商品を生み出し、「加古川の古酒ブランド」を発信していきます。

古酒用の新酒づくりも今年で４年目。10年以上かけて熟成させるため、蔵の２階も改装して活用していく予定です。ＳＮＳ発信にも力を入れて、古酒の魅力をさらに広げていきます。



加古川発の古酒ブランドです。
ぜひ大切な人への贈り物や、お中元・お歳暮にご利用ください！